



ライティングセンター開室2年目を迎えました

ライティングセンターにおいて対面・オンライン指導を開始してから、今年度で2年目を迎えました。いまだコロナ禍にありますが、状況に応じて対応を検討しながら運営してきました。

まず、ライティングセンターの支援体制では、対面指導とオンライン指導を並行しています。また、情報発信の手段として学生向けにはTwitter・LINE・YouTubeを、学外関係者に向けてはFacebookを用いています。

今回のニュースレターでは、ライティングセンターの取り組みのうち、「対面&オンライン指導」「SNSによる情報発信」「学生のレポートつまずきポイント」「ライティングセンター教員コラム」「2021年度ライティングセンター総括データ」「教育指導員の学び」などについてご報告します。



対面&オンライン指導

2021年4月から10月まではオンライン指導のみでしたが、11月からは、3ブースのうち1ブースに限り、西宮上ヶ原キャンパス大学図書館地下1階において対面での相談対応を開始しました。対面セッションを開始したことにより、事前予約がなくても、**学生が飛び込みでライティングセンターのセッションを利用できるようになりました。**



▲対面セッションの様子

▲オンラインセッションの様子

対面セッションの利点

利用学生の細かな表情や雰囲気を感じ取り、支援に活かすことができるようになりました。より、利用学生の理解度に即した支援を行う体制を整えています。

オンラインセッションの利点

オンラインセッションも継続して実施し、西宮上ヶ原キャンパス以外の学生もライティングセンターを利用しやすい体制を整えています。



SNSによる情報発信

ライティングセンターでは、本学学生・教職員・学外関係者らに向けて、本センターの取り組みを随時配信しています。



Twitter

学生向けにライティングセンター利用者のコメントやレポート執筆のtipsなどを発信しています。また、セッション空きコマ情報などライティングセンターの利用を促すツイートも投稿しています。



LINE

学生向けに、センターの対面・オンライン指導の空きコマ情報や、ライティング科目の開講情報などを配信しています。また、対面・オンライン指導の予約手続きが簡単に行えるため、学生にはLINEの登録をおすすめしています。



YouTube

大学公式チャンネルでは、ライティングセンターを紹介する動画が配信されています。さらに、ライティングセンター公式チャンネルでは、授業の様子に関する動画を配信しています。



Facebook

学外のライティング教育支援の関係者、また、本学の卒業生・保護者等に対してライティングセンターの取り組みや研究成果を発信しています。



学生のリポートつまりポイント

学生からのよくある相談と対応方法

対面・オンライン指導でよくある学生からの相談トピックと、その相談に対するライティングセンターでの対応例の一部をご紹介します。ここでご紹介したものと同じような悩みを抱える学生がおられましたら、ぜひご利用ください。

相談トピック	相談内容	教育指導員から見た課題	対応方法の例
文章執筆の基礎について	段落構成など、形式的な事項について教えてほしい	利用学生の文章には、形式段落ができておらず、序論に本論で扱うべき内容が入ったり、結論で新しい問いが立てられたりする傾向が見られました。	まず、ブレインストーミングを一緒に行い、各学部が個別に公開しているレポートガイドを参考にしつつ形式的な事項を確認します。また、OPACやCiNiiなどのツールの使い方についても教育指導員が利用学生と一緒に実践しています。さらに、各段落に書くべきことや参考文献の取り扱いなどの内容面についても、教育指導員と利用学生が対話を繰り返しています。このように、利用学生自らが気づき、文章を修正していくことを促しています。
	参考文献の書き方・調べ方がわからない	利用学生の文章には、参考文献が記されていないかたりネット記事を引用していたりする傾向が見られました。	
文章の展開について	論理の展開に不安がある	利用学生の文章には、論理の飛躍や整合性が取れていない（例えば、はじめはエネルギー政策を推進する話をしていたのにも関わらず、後にそれを批判しているなど）傾向が見られ、不安を抱えて来室した事例がありました。	論理展開の方法について対話しながら検討し、その際、引用の示し方など形式的部分に関する支援も行うことで、最後まで文章の説得力を高めるための支援を行っています。具体的には、初回の利用の際、主張・根拠・論拠に色分けをさせることなどを行っています。このように、文章の構成を吟味するよう支援しています。

ライティングセンター教員コラム

ニュースレターVol.2以降では、ライティング教育の現状や具体的な支援の方法について取り上げたコラムを掲載していきます。今回は、ライティングセンター助教の野瀬由季子先生から「学生のリポートテーマの具体化をどのように支援するか」について、ご紹介いただきます。

学生の提出したリポートによくある傾向の1つが、リポートのテーマ・タイトル（以下 テーマ）が具体的にでないということです。例えば、「『少子高齢化』に関するリポートを書いてください」と課題を提示すると、提出されたリポートのテーマは、「少子高齢化について」のように教員の示した文言のままになっていて、本文を読まないといく具体的に何を論じようとしているのか確認できないものが数多く見られます。そこで、ライティングセンター開講科目では、**3つのポイント**を学生に提示しています。

まず、1つ目に「範囲設定が広すぎず狭すぎないか」を確認させています。例えば、「地球温暖化」をテーマにするとしても、限られた字数の中で、地球温暖化という現象の何に着目して論じようとしているのか、自分の頭の中で整理してから書き進めるように伝えています。

また、2つ目に「具体性があるか」も確認するよう促しています。本文の中身とテーマが一致していないリポートも見かけるため、本文の修正と併せてテーマの文言も修正できているかに気づかせる支援をしています。

そして、3つ目に「議論する学術的価値があるか」を確認させています。例えば「ウミガメを守るべきか」のような反論の余地がないものをテーマにしていないか、至極当然のことを論じるにとどまっていないかを気づかせるようにしています。こうした3つのポイントを意識させることで、学生のリポートのテーマは徐々に具体的なものに修正されていくといった変化が見られます。

学生の提出したリポートテーマが抽象的だと感じておられたり、本文とテーマの文言が一致していないと感じておられたりする先生方は、こういったポイントの提示もご検討ください。

（ライティングセンター 助教 野瀬由季子）

2021年度ライティングセンター総括データ

学年・学部別利用状況

2021年度にライティングセンターを利用した学生の学年・学部別状況を右に示しています。

1年生を中心に、様々な学部からの利用があります。特に、全学共通科目のレポートを持ってくる学生が多く、ライティングセンターは授業外における学修支援の場となっています。

また、4年生の学生は卒業論文の相談をすることが多く、特にテーマを決めるにあたり、明らかにしたいこと（研究の目的）がまとめられないといった相談をする学生が多くいます。

こうした相談にも、教育指導員はテーマを深掘りし対話するなどして、様々な方法で目的を明確にする手助けをしています。

▼学部別利用者割合（計573名）



○学年別利用者割合▶（計573名）



利用学生の満足度

2021年春学期は、オンラインでの支援のみでしたが、大学の活動制限レベルが引き下げられたことを受け、2021年11月より、1ブースに限り対面での支援を開始しました。また、これに伴い、事前予約なしの、いわゆる飛び込み利用に関しても利用を受け付けました。

飛び込みの利用はトータルで11件ほどあり、図書館利用の際にライティングセンターにも立ち寄り、参考文献の書き方等をたずねる学生も多くみられました。

オンラインのみの支援からオンライン・対面併用型の支援へと形態が変わりましたが、利用学生からの高い評価を維持しています。

○セッション後アンケート結果（回答者数：558 回答率：97%）

5段階評価平均点

今回のセッションに満足しましたか？	4.80
セッションを担当した指導員は初めに決めた目的通りにセッションを進めてくれましたか？	4.84
セッション後にやるべきことは明確になりましたか？	4.86

○利用学生の声

- ・ レポートの主張、テーマについて決めかねていたのですが教育指導員の方と話し合いながら範囲を絞り込むことができました。相談してよかったです（教育学部 1年生）
- ・ タイトルや文章で改善すべき点、また、参考文献の書き方などがわかって非常によかったです（文学部 1年生）

学外関係者への研究発表

2022年3月16-17日に開催された第28回大学教育研究フォーラムにて教員3名が口頭発表を、助手2名がポスター発表を行いました。ここでは助手の発表を紹介します。

オンラインライティング指導における院生スタッフの工夫 —関西学院大学ライティングセンターを事例に— 大福聡平・渡橋恭子・野瀬由季子・福山佑樹・西口啓太

本研究では、本センターの教育指導員がオンラインセッションを実施する際、どのようにオンラインツールを活用していたかを分析した。その結果、教育指導員は「自立した書き手の育成」という理念を常に意識し、「口頭説明を補助する」「共同で作業する」「利用学生に考えさせる」ことを目指してオンラインツールを活用していたことが明らかになった。

（大学教育研究フォーラム発表論文集p. 84, オンライン開催, 2022年3月16日）



ライティングセンターを訪れた学生の文章の変化からみる効果的な支援方法 渡橋恭子・大福聡平・野瀬由季子・西口啓太・福山佑樹

本研究では、本センター利用学生の相談内容の録画データを通して、教育指導員の助言内容の分析を行い、これらが利用学生の文章に与えた影響を考察した。その結果、教育指導員は学生の文章の修正すべき点のみを指摘するのではなく、良い点も提示することで利用学生に安心感を与えようとしていることが明らかになった。また、教育指導員が修正すべき理由を利用学生に提示することは、利用学生が納得感を持って確実にレポートの修正を行うことにもつながっていた。

（大学教育研究フォーラム発表論文集p. 155, オンライン開催, 2022年3月17日）



教育指導員（本学大学院生）の学び－1年間の経験を通して－

2021年4月より本センターにて1年間教育指導員をつとめられている、本学大学院生の肥田菜奈さん、黒木優介さん、梶谷優希さんに1年間の経験を通して学んだことを教えていただきました。

※3名のご所属は2021年度時点のものです

肥田菜奈さん 言語コミュニケーション文化研究科博士課程後期課程

最初は、文章を初見で支援することが難しかったのですが、指導員研修を通じて、「自立した書き手の育成」への理解を深められました。これにより実際の支援の場でも、論文の基本原則をうまく伝えられるようになりました。また自分自身も、「読み手」の視点をより強く意識できるようになったという変化がありました。この経験は自分自身が論文執筆を行う際にも役立つと思います。



黒木優介さん 文学研究科博士課程後期課程

「教育指導員」という職名ではありますが、我々の役目は学生の持ち込んだ論文を良い論文にすべく指導することではありません。学生自身が「自立した書き手」になれるように支援することです。そのため、学生に的確な質問を投げかけ、彼ら自身の考えを引き出すことが重要になりますが、この支援を通して、「聞くこと」がいかに難しいことであるかを痛感しました。しかし、指導員研修を通して質問のレパートリーを増やし、実際の対面指導で実践するなどといった過程によって、「聞く力」を身につけることができました。こうした経験を通して、支援の枠にとどまらず、平日頃から「聞くこと」を意識するようになりました。



梶谷優希さん 人間福祉研究科博士課程前期課程

教育指導員として学生の支援に関わる中で、私自身、アカデミックな文章を書くための実践的な力が身につきました。例えば、論文に必要な要素をおさえ、説得力のある文章を書くための具体的なイメージを持てるようになりました。これは修士論文を書く際、質的・量的調査の考察をはじめすべての箇所の執筆で役立つ力であり、所属研究科からこの論文に対して最優秀賞をいただきました。これは、教育指導員として学生の支援に関わる中で、説得力のある文章を書くための実践的な力が身についたおかげだと感じています。



対面・オンライン指導 および 開講科目のご案内

対面・オンライン指導

授業のレポート課題や卒業論文の執筆を進めている学生に対する支援を行なっています。予約は、kwicやライティングセンター公式LINEから可能です。



授業科目：ライティング執筆の基礎を習得するための科目も開講しています

「スタディスキルセミナー（レポート執筆の基礎）」（大学生）

レポート課題に取り組むことに対して不安を抱えている学生や、レポートの書き方を体系的に学びたい学生を対象とした科目です。20名程度の少人数制で、それぞれの学生が執筆した文章に対して、何度もフィードバックが行われます。

「論文執筆のためのアカデミックライティング」（大学院生）

大学院に入学してこれから論文を執筆する学生や、論文の書き方について改めて学び直したい学生を対象とした科目です。この科目では、論文を執筆する際に必要となる、基礎的な知識・技能を習得することに重点を置いています。また、少人数制であるため学生同士での意見交換を通して文章を改善することを学ぶ機会もあります。なお、夏休み・春休みには集中講義も開講されます。

出張型のライティングセンター利用案内にも可能な限り対応しています。

センター利用案内に関するご相談がございましたら、下記の連絡先までご連絡ください。



☎ | 0798-54-7459 場所 | 西宮上ヶ原キャンパス大学図書館 地下1階
✉ | writingcenter@kansai.ac.jp 開室時間 | 平日10時～17時

